

事業の概況・商品群別の概況 (連結)

上半期において、国内では、全ての都道府県が2025年の医療の提供体制を示す地域医療構想の策定を本年3月末までに終え、医療の機能分化・連携に向けた協議が始まるなど、医療制度改革が進展しました。医療機器業界においても、各企業は医療の質向上と効率化、地域医療連携に寄与するソリューション提案がより一層求められる状況となりました。海外では、米国の医療保険制度を巡る不透明感や一部地域的情勢不安はあるものの、医療機器の需要は総じて堅調に推移しました。

このような状況下、当社グループは、本年4月に3ヵ年中期経営計画「TRANSFORM 2020」をスタートさせ、「高い顧客価値の創造」「組織的な生産性の向上」による高収益体

質への変革を目指すとともに、「地域別事業展開の強化」、「コア事業のさらなる成長」などの重要課題に取り組みました。

当上半期の売上高は前年同期比2.9%増の766億4千8百万円となりました。利益面では、国内事業における導入品の売上原価率上昇、海外事業における売上増に伴う外注費の増加等により売上原価率が上昇したことに加え、研究開発投資等により販管費が増加したことから、営業利益は前年同期比18.4%減の31億2千8百万円となりました。一方、為替差損益が差益に転じたため、経常利益は前年同期比38.4%増の37億2千2百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比51.0%増の25億4千1百万円となりました。

① 生体計測機器



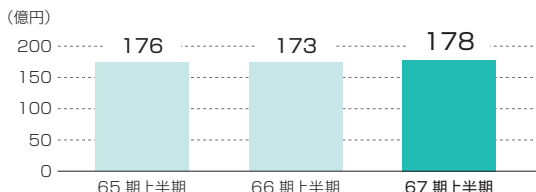
心電計 ECG-2450

脳波計、筋電図・誘発電位検査装置、心電計、心臓カテーテル検査装置、診断情報システム、関連の消耗品(記録紙、電極、電極カテーテルなど)、保守サービスなど

国内 脳神経系群は前年同期を下回りましたが、心電計群、心臓カテーテル検査装置群、診断情報システムは好調に推移しました。

海外 脳神経系群は堅調に推移しましたが、心電計群は前年同期を下回り、全体では減収となりました。

売上高 178 億円 (前年同期比 3.1%増)



② 生体情報モニタ



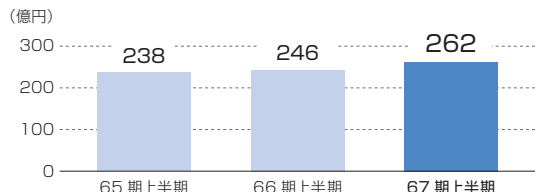
ベッドサイドモニタ CSM-1901

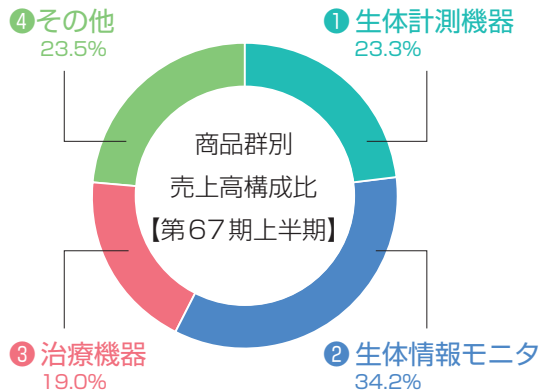
心電図、呼吸、SpO₂ (動脈血酸素飽和度)、NIBP (非観血血圧) 等の生体情報を連続的にモニタリングする生体情報モニタ、臨床情報システム、関連の消耗品(電極、センサなど)、保守サービスなど

国内 送信機、ベッドサイドモニタは前期好調だった反動もあり低調でしたが、臨床情報システム、消耗品が好調に推移し、全体では前年同期並みとなりました。

海外 米州、欧州が大きく伸び、アジア州も堅調に推移しました。

売上高 262 億円 (前年同期比 6.4%増)





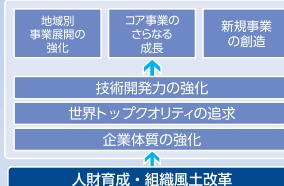
■中期経営計画

TRANSFORM 2020

基本方針

- 1 高い顧客価値の創造
- 2 組織的な生産性の向上

6つの重要課題



経営目標値 (2020年3月期)

	目標値
売上高	1,900 億円
国内売上高	1,350 億円
海外売上高	550 億円
営業利益	200 億円
ROE	12.0%

③ 治療機器



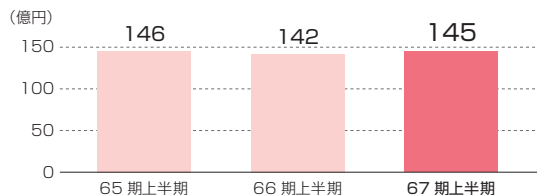
自動体外式除細動器 AED-3100

除細動器、AED (自動体外式除細動器)、心臓ペースメーカー、人工呼吸器、麻酔器、迷走神経刺激装置、人工内耳、関連の消耗品 (電極パッド、バッテリーなど)、保守サービスなど

国内 医科向け除細動器、AEDは前年同期を上回ったものの、ウォーミングシステムが仕入先変更により前年同期を下回り、全体では減収となりました。

海外 国内と同様、医科向け除細動器が好調に推移しました。またAEDは販売台数が前年同期を下回ったものの、消耗品が堅調に推移し、増収となりました。

売上高 145 億円 (前年同期比 2.2%増)



④ その他



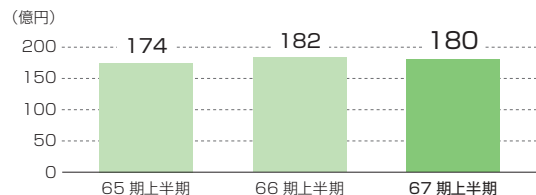
全自動血球計数器 MEK-9100

血球計数器、臨床化学分析装置、超音波診断装置、研究用機器、消耗品 (試薬、衛生用品など)、設置工事・保守サービスなど

国内 検体検査装置、保守サービス事業が低調に推移し、減収となりました。

海外 血球計数器は低調に推移したものの、サービスや仕入品が前年同期を上回り、全体では増収となりました。

売上高 180 億円 (前年同期比 1.3%減)

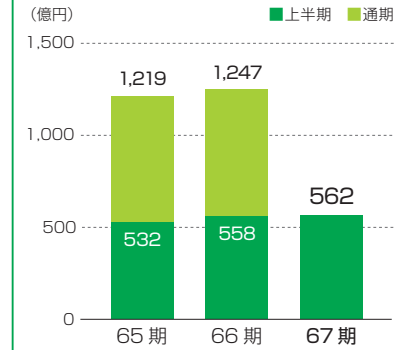


事業の概況・地域別の概況 (連結)

国内市場

医療制度改革など市場環境の変化に対応するため、昨年4月の営業組織体制再編に続き、本年4月に販売子会社制から支社支店制に移行しました。急性期病院、中小病院、診療所といった市場別の取り組みを強化するとともに、消耗品・保守サービス事業の拡大に注力した結果、売上を伸ばすことが出来ました。市場別には、大学、官公立病院市場の売上は前年同期実績を下回ったものの、診療所市場が好調に推移し、私立病院市場の売上も前年同期並みを維持しました。商品別には、生体計測機器が診断情報システム、心臓カテーテル検査装置群を中心に好調に推移しました。治療機器、その他商品群は前年同期実績を下回りましたが、生体情報モニタは前年同期並みを確保しました。送信機、ベッドサイドモニタは、前年同期における医療機関の機能分化・強化に伴う需要の反動により低調だったものの、臨床情報システムや消耗品が増収となりました。この結果、国内売上高は前年同期比0.7%増の562億4千1百万円となりました。

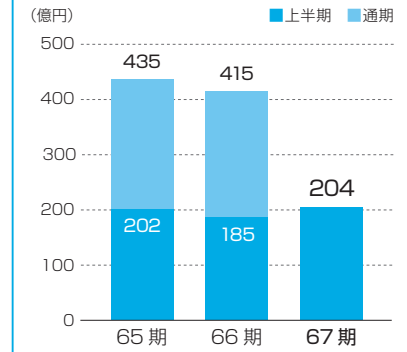
国内売上高推移



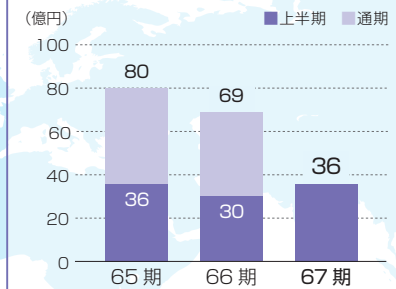
海外市場

米州では、前期末に受注した複数の生体情報モニタ商談の出荷もあり、米国での売上が大幅に伸長しました。中南米も、ブラジル、コロンビアを中心に好調に推移しました。欧州では、フランスが好調に推移したほか、トルコ、ロシアにおいて売上が回復しました。アジア州では、中近東は販売代理店網の整備・拡充に努めた結果、前年同期実績を上回りましたが、韓国、ベトナムが低調でした。中国は現地通貨ベースでは前年同期実績を上回りましたが、円高による為替換算の影響で減収となりました。その他地域では、前年同期におけるエジプトでの大口商談の反動もあり、減収となりました。商品別には、生体計測機器は前年同期実績を下回りましたが、生体情報モニタ、治療機器の売上が大幅に伸長し、その他商品群も前年同期実績を上回りました。この結果、海外売上高は前年同期比9.8%増の204億7百万円となりました。

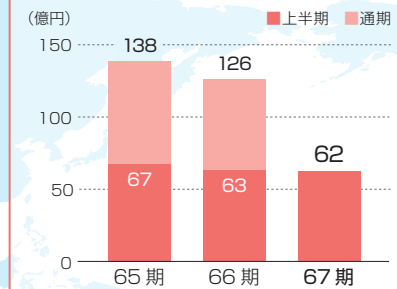
海外売上高推移



欧州売上高推移



アジア州売上高推移



米州売上高推移

